

在宅におけるCOPDの呼吸管理 ～多職種で支える在宅医療～

プラーナクリニック 医療技術部

阿部 博樹

当院は在宅療養支援診療所として、地域の訪問看護ステーション等と連携しながら訪問診療を行っている。今回、在宅でのCOPDの呼吸管理について当院の取り組みを報告する。

COPD患者が在宅で利用できる医療・介護サービスは多い。訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問ヘルパー、デイサービス等があげられる。在宅医療は、関係する施設が多いほど情報共有が難しい。在宅酸素療法(HOT)及び在宅人工呼吸療法(HMV)を行っている場合は、停電等の緊急時の対応について支援者も理解していることが重要である。

COPD患者宅でHOT、HMVを導入している場合、支援者が医療機器に対して苦手意識を持つことが多い。当院が連携する訪問看護ステーションでは、定期的に勉強会を実施し、トラブル事例を含めた情報共有を行っている。地域のケアマネージャーを対象にしたアンケートでは、HOT、HMVについて学べる研修会が少ないことが分かった。COPDについて理解を深め、HOT、HMVに触れてもらう機会を作るため、在宅での呼吸ケアに関する研究会を立ち上げた。

COPD患者の療養生活を支えるには、地域の医療・介護関係者に病気の特長について知ってもらうことが重要である。当院はCOPD患者に対して、顔の見える多職種連携を行うことで増悪防止及び増悪時の迅速な対応ができるよう目指している。